

八中2年人権だより

徳島市 八万中学校
2年生 第2号
2023年6月5日
編集・文責 吉成正士

(1号からのつづき)

原爆ドームに行ってみたい

■人権作文発表会に参加して、今回は普段よりもっと様々なことを学べた気がします。6人のクラス代表者が発表してくれた作文の内容は、私の心に刺さりまくっていました。まるで私の心をのぞいているかのような問いでした。その度に、深く考えさせられました。

特に心に残り続けているのは、給食のことです。これは発表のときにも言いましたが、今年は残飯が多くて本当に驚きました。去年のクラスと比べるとは良くないかもしれないけれど、SDGsのことを学習してから、去年の私のクラスでは、給食をなるべく残さないように、みんなが頑張って食べていました。今年、ご飯の残飯が入った袋を持ってみたとき、重すぎて私の心も腕も耐えきれませんでした。思わず声が出なくなるほどでした。現在も世界のどこかでは飢餓で苦しんでいる人がいます。それなのに、私たちは平気で食べ物を残していいのでしょうか。偉そうに長い文章を書いてしまって申し訳ないです。でも、このことをみんなに伝えたいんです。私も給食を残したことはあります。むしろ、小学生の頃は残しまくっていました。だからこそ、みんなと一緒に残飯ゼロという目標を掲げて給食を食べていきたいんです。もちろん、無理に食べろというつもりは全くありません。でも、一口でも多く食べていきませんか？

長くなりましたが、以上が私の伝えたかったことです。給食のこと以外にも部落差別や戦争、SNSなど、様々なことについて深く考えられました。私にとって戦争は、人生最大の人権侵害です。戦争は絶対にあってはならないことです。戦争の恐ろしさをもっと知るために、原爆ドームに行ってみたいと思いました。SNSは、私たちの身近にあって便利なものだけど、使い方を間違えると、凶器にもなりかねないものです。これらのことを忘れずに、気をつけて行動していきたいと思いました。

(6組KK)



原爆ドーム、広島平和記念資料館、ぜひ行ってほしいですね。長崎原爆資料館や、沖縄県のひめゆり平和祈念資料館、鹿児島県の知覧特攻平和会館、福井県の

舞鶴引揚記念館も行っておくことをお勧めします。そう考えると、全国各地に、戦争にまつわる学びの場はたくさんあります。

今回、昨年に続いて「新聞切り抜きコンクール」を夏休みの宿題とすることをお知らせしました。私からの選択課題は4つ。

- | | |
|----------|----------|
| 1. 差別と人権 | 2. 災害と防災 |
| 3. 戦争と平和 | 4. SDGs |

この中から一つを選び、自分なりの作品テーマ(題)を考えて制作してもらいます。今から新聞を収集していくつもりで見ていってください。これから暑くなる時期は、戦争に関する記事がどんどん出てきます。意識して眺めてみてください。

ちなみに、原爆ドームに行くなら、8月5日の夜から6日にかけて行くことを、絶対絶対お勧めします。でないと、分かるものも分からないと思います。

私、去年は四国総体で行けませんでした。一昨年は行けましたが、3年前はコロナ禍で学校があったために行けませんでした。毎年できるだけ行くようにしていますが、思うことは、「一度で見切るのは無理!」ということです。見ているうちに、気持ちがお腹一杯になってしまうのです。だから、一度ですべてを見切ることは、おそらく無理だと思います。何度かに分けて見に行くつもりでいることをお勧めします。それだけ濃い内容がたくさんあるということです。学びに終わりはありません。



④「スポーツと人権」4組:0H

あらすじ

ボルダリングをする、障がいのあるクライマー。目の見えないパラクライマーとの出会いから、見えない中で教え合いながらするボルダリングに楽しさを感じた。外国人も障がい者も、高齢者も子どもも来るジムは、年齢も生まれた場所も関係ない、人権学習ができる場だと思った。

フルーに全力、すべてに全力

■1つ発表したかったことがあって、後悔している。だから次からは、意見に自信をもって、ためらいを減らそうと思う。その意見はOHさんの内容で、「スポーツは決められたルールの中で最大限に個性を生かせる」という言葉から考えたことだ。自分もバドミントンがやりやすく、楽しいと思って部活に入っており、自分らしさを最大限出せている。だから、とても納得できる内容だった。パラリンピックが前にあったときに、選手ができる範囲で全力プレーする姿が心に残り、満足した環境でスポーツができる自分は文句を言って生活してはいけないと思った。これからのスポーツは、どんな人も楽しめるものになっていけばと思う。自分も全力で楽しんでプレーしようと思う。



全体の発表を聞いて考えたことは、原爆の2回目(第2次世界大戦後)の被害がないのは、日本が受けた原爆の被害が活かされているということ。また、人権獲得の歴史があって、今の「人権」という認識があるということだ。未来について考えるには、昔のことを知るのには欠かせないのではと思う。僕も今まで、いじめを止めなくて後悔したことなどがある。それを後悔だけでなく、反省して、人とかかわりに生かしていこうと思った。

新聞のみんなの感想であった、「普通の生活がかけがえのないもの」「今のこの生活が幸せ」という発表は、生活するうえでまず忘れてはいけないと思う。そして、今のかけがえのない生活で悪口や噂、人を傷つけるのはすごくもったいない。今の生活を分かったからこそ、人に親切にしたり、思いやりを分かち合ったり、他人と自分を大事にする生活を心がけていきたい。この発表会を通じて、まわりの考えがよくわかり、納得できる内容も多かった。大きな意味のある発表会になった。

(4組SH)

様々な障がいを通して学ぶ

■僕は、この人権作文発表会に参加して、自分以外の2年生が人権やこの学校生活に対して、どのように思い、考えていたのか、少し知ることができたと思います。人権に対して、何かしらの思い出があったり、気になっていたことがあったりしていて、自分も人権について、今の自分の取り組み方でいいのか、もっとしっかり考えて行動に移した方がいいのか、あらためて考えました。部落差別や戦争などの歴史は、今現在起こっていますが、あまりかかわりが薄い問題で、いずれ考えていこうとは思いますが、今、自分が深く知り、考えて

いこうと思ったのは、SNSや障がい者への差別や、誹謗中傷などの人権問題です。自分も今、生活でSNSなどのインターネットにふれているので、もし人権問題になるようないじめや、嫌がらせを見つけたら、まず注意をしていくことから始めようと思います。また、障がい者差別などの人権問題などに関しては、障がい者への差別や人権問題を探していくのではなく、手助けなどをしていこうと思います。

自分の父は耳の障がいを持った人や、視覚障がいを持つ人を助ける仕事をしているので、その会社や現場に行ったりすることがあります。そこにも障がいを持った人がいます。僕はそういう場所や身近な場所で見つけたら、まず助けてあげるということを優先していこうと思います。部落差別や戦争については、そういう差別に対しての反対意志や、昔の人たちが土台となって今の自分がいて、幸せな生活を送れていることを忘れずに、これからも人権問題について学んでいこうと思いました。

(5組MR)

あるクラスで、「人権と経済」についてお話をしました。言い方を変えると、「お金中心主義」が強い社会の価値観のなかで、どうしてもこぼれ落ちてしまう存在がいて、それが差別の対象になってしまっているというお話です。数年前に起きた障害者施設殺傷事件もそうですし、ハンセン病問題や多くの公害問題もそうです。それらの問題をどう考えていけばいいか。

教室には多様な人がいます。誰一人同じ人はいません。その誰もが排除(のけ者に)される存在ではありません。とはいえ、たくさんの人数で共同生活していれば、いろんな問題が発生してきます。そのときどうすればいいか。

注意する、もそうでしょう。

話し合う、もそうでしょう。

いずれにせよ、文句や愚痴を言うだけや、のけ者にするだけでは、本当の解決にはならないということです。もし、自分にとってそんな対象がいるようであれば、まず近づく。声をかける。そして、つながる。その人のステキな一面を知り、その人を当たり前前に認め、その人と共に歩む道を自分なりに探っていく。文句や愚痴を言うことはたやすく、先に述べたことは難しいことです。でも、「共に歩む」とはそういうことではないかと思うのです。

そのそも差別をなくすとか、人権を大切にするとはい、そのような難しい道をたどることではないかと思えます。つまり、私たちがしていること、しようとしていることは、とてつもなく困難なことへの挑戦なのかもしれません。「そんなこと無理」と、人は言うかもしれませんが、やる前から、「できない」とは思いたくありません。事実、そんな不可能と思えるようなことに挑戦している人は、世界中にたくさんいます。その一人に自分がなれるかどうかなんて分かりません。でも、大きなことはできないかもしれないけれど、小さな力にはなれるかもしれません。大海に投げられた小石は小さくても、波紋は大きく、どこまでも広がり続けていくものです。私はあきらめたくありません。どこまでも、差別をなくす道を探し続けたいと思えます。

(3号につづく)